

# 鼻中隔わん曲症



笠井創院長

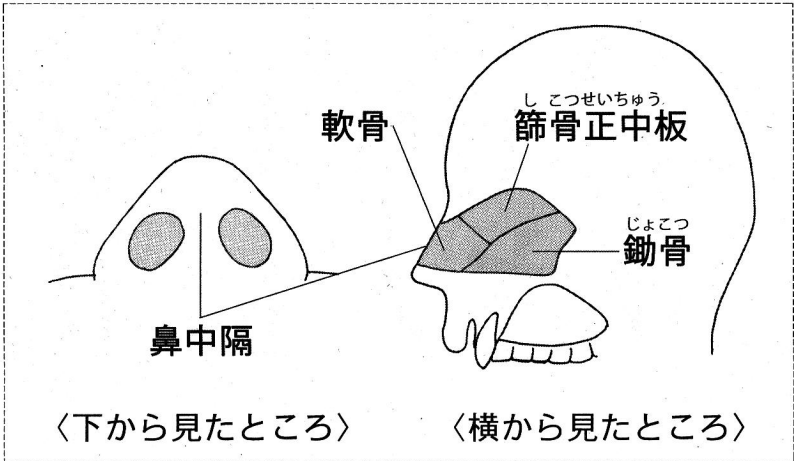
「鼻中隔」とは、鼻の中央部の仕切りを指します。この部分が曲がることによって、さまざまな症状が出るのが鼻中隔わん曲症です。この病気について、笠井耳鼻咽喉科クリニック（東京都目黒区）の笠井創院長に聞きました。

わん曲は多くの人にある

鼻の穴を真ん中で左右に仕切る壁の役割を果たしているのが鼻中隔で、1枚の軟骨板を2枚の骨板（篩骨正中板、鋤骨）が挟んで構成されています（図1参照）。

この鼻中隔は、ある程度ゆがみや曲がりがあるのが普通です。年齢とともに、わん曲の発生頻度は増加し、成人では80〜90%との報告もあります。発生の原因ははっきりしていませんが、鼻中隔の右側と左側の発育差、かみ合わせ、軟骨と骨板の発育速度の差などが影響していると考えられています。生まれる時の、産道で

【図1】鼻中隔の位置と構造



鼻腔を左右に分けている板状の仕切りが鼻中隔。鼻中隔は軟骨、篩骨正中板、鋤骨が組み合わさってできていて、その上を粘膜が覆っている

の圧迫によるという説もありです。の対象となります。

最も多い症状は鼻づまりです。口呼吸、覚醒障害、いびき、睡眠時無呼吸症候群、頭痛、頭重、副鼻腔炎、喉の感染などの症状も見られますが、これも鼻づまりによって引

## 鼻づまりをはじめ さまざまな症状

き起こされることが多くあります。また、風邪をひきやすくなることもあります。これらの症状があり、「自分はアレルギー性鼻炎ではないか」と思って病院へ来る人が多くいます。

